

不登校支援シート①

帯広市教育研究所
生徒指導グループ

1 未然防止の取組

- 新たな不登校を生まないために、「未然防止」の5つの取組を進めることがポイントです。
- 「未然防止」は、全ての児童生徒を対象に、日常の授業や学校生活の中で、児童生徒が「学校に来ることが楽しい」と感じられるようにすることが大切です。

～新たな不登校を生まない「未然防止」5つの取組～

5つの取組について ☒ してみましょう。

未然防止

1 居場所がある温かな学級づくり

一人一人の居場所がある温かな学級をつくりましょう

- 先生が児童生徒を認め、ほめること
- 自己有用感（自分は人の役に立っている）を高めること

未然防止

2 子ども同士や先生と子どもの絆づくり

一人一人の子どもの心を認め合う取組の推進と先生・子どもの信頼関係の構築を図りましょう

- 日々の授業や行事等で、全ての児童生徒が活躍し、仲間意識を育てること

未然防止

3 分かる授業づくり

きめ細かい教科指導の実施や学ぶ意欲を育む指導の充実を図りましょう

- 本時におけるねらいや課題を明確にすること
- 目的を明確にした交流や習熟度別・少人数指導等の指導体制を工夫すること
- 「できた！」「分かった！」という成功体験を積み重ねること

未然防止

4 小・中学校の連携

小学校と中学校による情報交換と交流活動を積極的に行いましょう

- 体験入学等により中学校入学におけるギャップを感じさせないこと
- 不登校傾向にある子（欠席や遅刻、早退が多い）の情報を共有すること

未然防止

5 家庭との連携

家庭との連携を密にし、学校と家庭が一体となって不登校の未然防止に努めましょう

- 欠席や遅刻、早退が多い児童生徒の家庭へ電話連絡や家庭訪問を早期に行うこと

不登校支援シート②

帯広市教育研究所
生徒指導グループ

2

初期対応の取組

- 新たな不登校を生まないために「初期対応」の取組を進めることがポイントです。
- 「初期対応」は、休みが増えている児童生徒を中心に、欠席が継続しないようにするための対応です。初期対応を行うための準備は、前年度の出欠情報の収集から始まります。

～新たな不登校を生まない「初期対応」2つの取組～

初期対応

1 早期発見：不登校の予兆を見逃さない

CHECK!



◆不登校予兆 9つのチェックポイント◆

- ☐ 1 体調不良での遅刻、早退が多くなってきた。
- ☐ 2 月3日以上欠席があった。
- ☐ 3 保健室に行くことが多くなった。
- ☐ 4 給食の量が著しく減少（増加）した。
- ☐ 5 学習意欲が低下した。
- ☐ 6 特定の教科のある日に欠席・欠課がある。
- ☐ 7 独りでいることが多くなった。
- ☐ 8 教室以外で過ごすことが多くなった。
- ☐ 9 からかわれたり、仲間はずれにされたりすることがある。

ACTION

すぐに本人・保護者に様子を聞いてみましょう

(例)

本人へ

「〇〇だったけど、何かあったの？」

保護者へ

「〇〇な様子が見られたのですが、ご家庭での様子はいかがですか？」

チェックに当てはまったら、すぐに対応を！

初期対応

2 早期対応：欠席したときのアクション

CHECK!



早期対応（欠席したときのアクション）をするために、事前のチェック（4月初めまでの行動）をしましょう

「配慮すべき子ども」を把握

過去3年間の欠席・遅刻・早退の状況から、「配慮すべき子ども」（欠席が30日未満でも欠席や遅刻、早退が多い）を事前にピックアップしておく。

ACTION

早期対応で「配慮すべき子ども」の欠席が継続しないようにしましょう

〔児童生徒が欠席した時のアクション例〕

欠席1日目 すぐに電話連絡

欠席2日目 電話連絡もしくは手紙

欠席3日目 家庭訪問

※累積欠席が3日になった時点で、チーム対応

「配慮すべき子ども」が欠席したら、早期対応を！

不登校支援シート③

帯広市教育研究所
生徒指導グループ

3 自立支援の取組

- 「未然防止」、「初期対応」を行っても、なお欠席が30日を超える児童生徒はいます。その先は、彼らが**社会的自立**に向けて歩めるよう、次のように体制を整え、事後の対応やケアで「**自立支援**」を行います。
- 不登校（傾向を含む）の児童生徒への効果的な支援を行うために、学校内外のコーディネーター的な役割を果たす不登校支援担当を明確に位置付け、**組織的に対応**することが考えられます。

～「自立支援」に向けた取組～

自立支援

1 不登校支援**担当の明確化**

学校内外のコーディネーター的な役割を果たす

□不登校支援担当の位置付け

により組織的に対応をしていく

＜主な役割の例＞

- ・校内における連絡調整
- ・個人記録票の管理
- ・児童生徒の状況に関する情報収集
- ・学校外の関係機関との連携協力 等

不登校支援担当を中核とした組織的な対応

不登校支援担当を中核とした組織的な対応

自立支援

3 関係機関等との**連携**



連携①

□SC、SSW との連携

- ・SCによる児童生徒の抱える心理的課題等への助言・支援
- ・SSWによる関係機関等とのネットワークの構築、連携・調整



連携②

□フリースクールや「ひろびろ」、「ひろびろ CHOICE」との連携

- ・フリースクールや「教育支援センターひろびろ」、「ひろびろ CHOICE」における児童生徒の居場所づくり
- ・児童生徒が学校外の施設に通う場合であっても、家庭訪問等により、状況を把握し、継続的に関わることが大切です。



連携③

□養護教諭等との連携や校内教育支援センターの利用

- ・児童生徒が状況に応じて安心して学校生活を送ることができるよう、校内教育支援センターなどの「居場所」を充実させましょう。

自立支援

2 記録

□**個人記録票**の作成

- ・保護者や関係機関との連携等において活用することができる不登校児童生徒の「個人記録票」を作成し、活用しましょう。

児童生徒理解・教育支援シート(ケース会議・検討会等記録)			
学年・組	名前	日付	記録者
Q本人の意向			
Q保護者の意向			

□**学校外の学習状況の把握**と評価の工夫

- ・学習状況を把握し、学習の評価を適切に行い、評価の結果を児童生徒や保護者等に積極的に伝えましょう。